



## 地域医療市民意識調査の概要

### 1. 調査の目的

平成 27 年 3 月に総務省より示された「新公立病院改革ガイドライン」により、病院事業を設置する地方公共団体は、平成 28 年度までに新たな公立病院改革プランを策定することが求められている。

本市においては、新たな市立伊丹病院改革プラン策定に際し、市民の地域医療ニーズや思いについてアンケート調査を実施し、平成 19 年度に実施した「地域医療市民意識調査」との経年比較を行うことにより、地域医療の実態を把握するとともに、医療に対するニーズ等から課題を抽出する。

これにより、新たな市立伊丹病院改革プランにアンケート結果を反映させるとともに、地域医療体制をどのような方向性で充実させていくかなど、本市や市立伊丹病院における短期的、あるいは中長期的な視点での、様々な施策等に反映させ活用していく。

### 2. 調査の対象

無作為に抽出した 20 歳以上の市民 2,000 人を対象に実施。

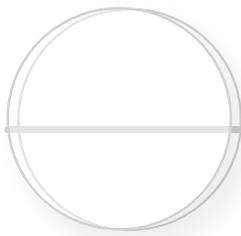
返信用封筒にて無記名により回答をいただいた。

### 3. 実施期間

平成 28 年 7 月 1 日～平成 28 年 7 月 20 日

### 4. アンケート回収率

2,000 部配布したうち、793 部のアンケートを回収することができ、回収率は 39.7%となった。前回、伊丹市において平成 19 年度に実施した「地域医療市民意識調査」の回収率が、60.2%であったことと比較すると、回収率は 20.5 ポイント低下している。



# 地域医療市民意識調査結果

## 1. 回答者の属性について

### 問1. あなたの年齢区分を記入してください。

回答者のうち、65歳以上の方は42.1%（市内人口に占める同年齢層は24.0%）を占めている一方、20代の方の回答は5.7%（市内人口に占める同年齢層は10.5%）である。

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	合計
回答数	18	27	53	58	73	56	61	49	63	90	81	162	791
占有率	2.3%	3.4%	6.7%	7.3%	9.2%	7.1%	7.7%	6.2%	8.0%	11.4%	10.2%	20.5%	100.0%



結果として、年齢層が上がるにつれ、医療機関への受診機会が多くなることから、医療への関心が高まる傾向にあるといえる。

### 問2. あなたの性別を選び記入してください。

「男性」の割合が42.5%、「女性」の割合が57.5%となっている。

	男性	女性	合計
回答数	336	455	791
占有率	42.5%	57.5%	100%

### 問3. お住まいの小学校区を選び記入してください。

	伊丹	稲野	南	神津	緑丘	桜台	天神川	笹原	瑞穂	有岡
回答数	95	51	54	14	40	49	48	64	44	43
占有率	12.1%	6.5%	6.9%	1.8%	5.1%	6.2%	6.1%	8.1%	5.6%	5.5%
	花里	昆陽里	摂陽	鈴原	荻野	池尻	鴻池	不明	合計	
回答数	29	40	41	31	25	50	30	38	786	
占有率	3.7%	5.1%	5.2%	3.9%	3.2%	6.4%	3.8%	4.8%	100%	

### 問4. あなたご自身もしくはご家族に、医療や介護関係のお仕事をされている方はいますか。

	はい	いいえ	合計
回答数	166	626	792
占有率	21.0%	79.0%	100%

**問5. あなたご自身もしくはご家族は、現在定期的に医療機関にかかっていますか。**

	はい	いいえ	合計
回答数	601	190	791
占有率	76.0%	24.0%	100%

**問6. あなたご自身もしくはご家族が、最も利用される医療機関はどれですか。**

「診療所」が最も多く 36.6%、次いで「市内のその他の病院」が 25.7%であった。また、「市立伊丹病院」が 13.2%、「近畿中央病院」が 11.4%となっている。

	診療所	市立伊丹病院	近畿中央病院	市内の その他の病院	市外の病院	合計
回答数	292	105	91	205	104	797
占有率	36.6%	13.2%	11.4%	25.7%	13.1%	100%



診療所と市内のその他の病院が大きな役割を担うとともに、伊丹病院と近畿中央病院をあわせると 24.6%にもものぼり、市民にとっては、両病院の診療機能を充実させるとともに、診療所や市内病院も含めた円滑な連携を行うことが、地域医療に対する安全・安心に大きくつながるものと推測される。

なお、小学校区別にみた最も利用する医療機関については次のとおりである。

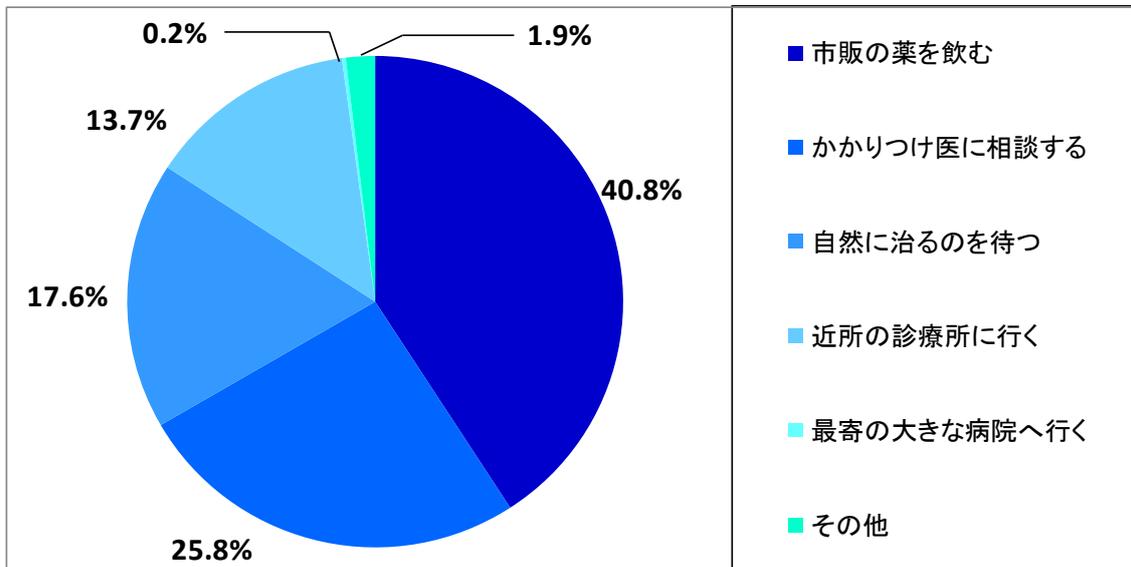
	診療所	市立伊丹病院	近畿中央病院	市内の その他の病院	市外の病院
伊丹	40.9%	12.9%	9.7%	27.9%	8.6%
稲野	45.1%	13.7%	9.8%	19.6%	11.8%
南	29.6%	3.7%	24.1%	24.1%	18.5%
神津	7.7%	30.8%	7.7%	38.4%	15.4%
緑丘	30.0%	20.0%	5.0%	37.5%	7.5%
桜台	50.0%	10.4%	8.3%	27.1%	4.2%
天神川	29.2%	10.4%	8.3%	39.6%	12.5%
笹原	41.3%	3.2%	31.7%	15.9%	7.9%
瑞穂	22.5%	17.5%	7.5%	30.0%	22.5%
有岡	39.5%	14.0%	9.3%	25.6%	11.6%
花里	34.5%	17.2%	13.8%	24.1%	10.4%
昆陽里	25.0%	10.0%	15.0%	32.5%	17.5%
摂陽	37.5%	15.0%	10.0%	25.0%	12.5%
鈴原	54.8%	12.9%	12.9%	6.5%	12.9%
荻野	48.0%	20.0%	4.0%	16.0%	12.0%
池尻	31.2%	18.8%	2.1%	33.3%	14.6%
鴻池	27.6%	27.6%	3.4%	27.6%	13.8%

## 2. 病状による対処方法の違い

「風邪をひいたかなと思った場合」「高熱で体がだるく動けなくなった場合」「突然ふだんと違う痛みを感じた場合」の三段階で、それぞれどのような対処方法をとるか、傾向を調査したものである。

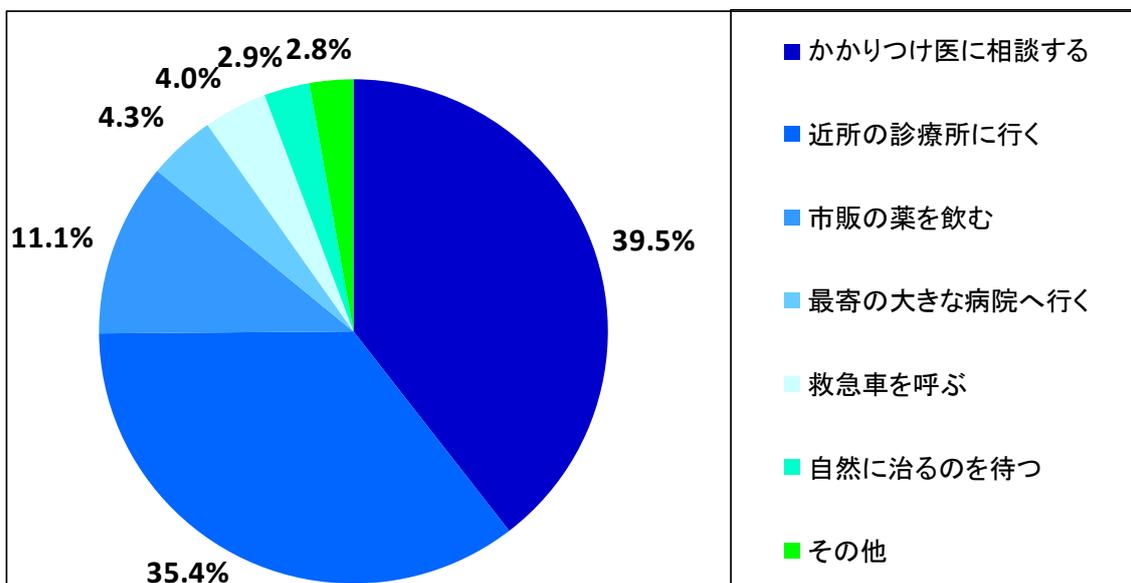
### 問7. 「風邪をひいたかな」と思ったら、どうされることが多いですか。

「市販の薬を飲む」が最も多く 40.8%、次いで「かかりつけ医に相談する」が 25.8%であった。



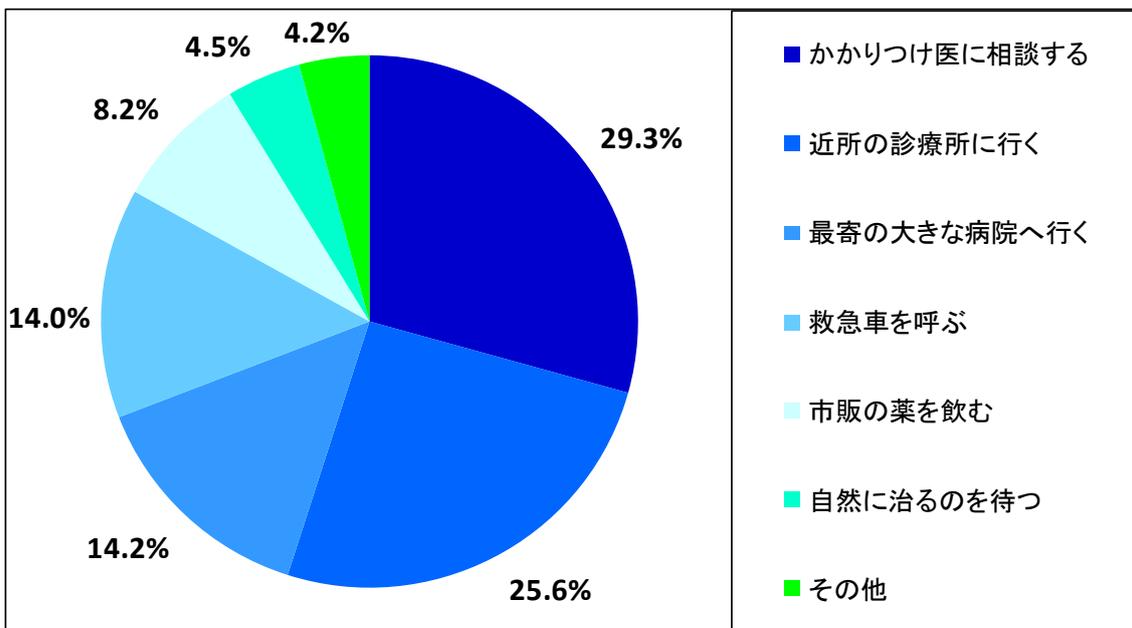
### 問8. 高熱で体がだるく動けなかった場合、どうされることが多いですか。

「かかりつけ医に相談する」が最も多く 39.5%、次いで「近所の診療所に行く」が 35.4%であった。



**問9. 突然ふだんと違う痛み（例えば、耐えがたい腹痛・頭痛など）を感じた場合、どうされることが多いですか。**

「かかりつけ医に相談する」が最も多く 29.3%、次いで「近所の診療所に行く」が 25.6%、「最寄の大きな病院へ行く」が 14.2%であった。



以上のように、三段階の病状による対処方法については、症状の度合いにより、市販の薬・診療所・病院などを使い分けていることがわかる。

また、病状にかかわらず、「かかりつけ医に相談する」「診療所に行く」との回答が多くみられることから、急病などの際に気軽に相談ができる「かかりつけ医」を持つことが、いざという時の安心につながるものと考えられる。

一方、「突然ふだんと違う痛みを感じた場合」に「救急車を呼ぶ」と回答した市民は 14.0%であり、急病の際にも相談ができるよう、普段から「かかりつけ医」を持つことが重要である。

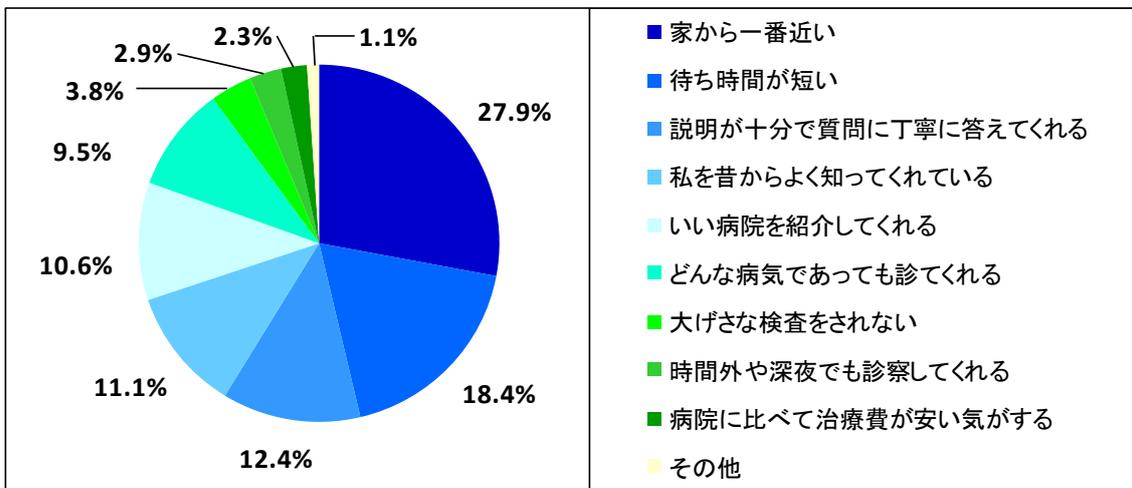
以上のことから、「かかりつけ医」を持つことを推進していくとともに、どのような場合に救急車を呼ぶべきかについて十分な啓発を行いつつ、急病などの際に、その対処方法等を相談できる「いたみ健康・医療相談ダイヤル 24」のさらなる周知にも努める必要がある。



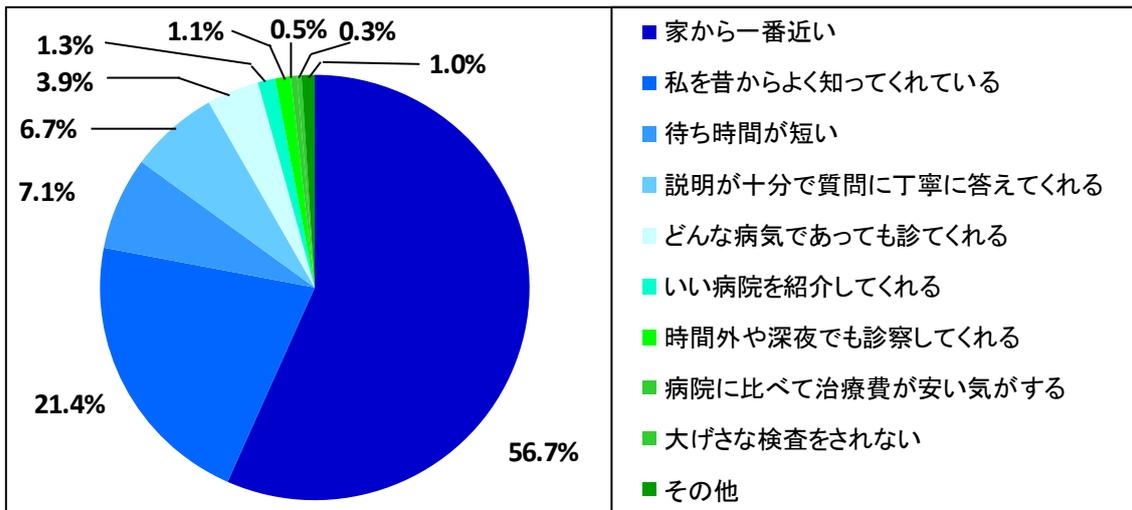
### 3. 診療所の長所・短所

#### 問 10. あなたが思う診療所の長所はどんなところですか。重要と思う順に3つまで選んで記入してください。

診療所の長所として、「家から一番近い」が27.9%、「待ち時間が短い」が18.4%であり、比較的多い回答となった。「説明が十分で質問に丁寧に答えてくれる」「私を昔からよく知ってくれている」「いい病院を紹介してくれる」も前の二つの回答に次いで多い。



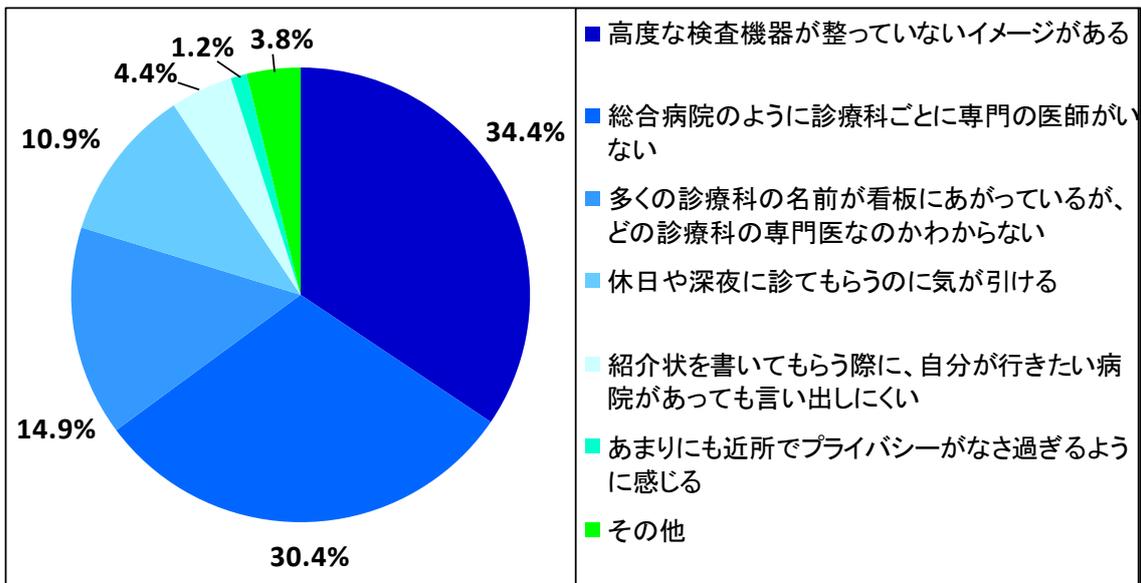
また、最も重要な長所として回答した項目については、「家から一番近い」が56.7%、「私を昔からよく知ってくれている」が21.4%であり、比較的多い回答となった。



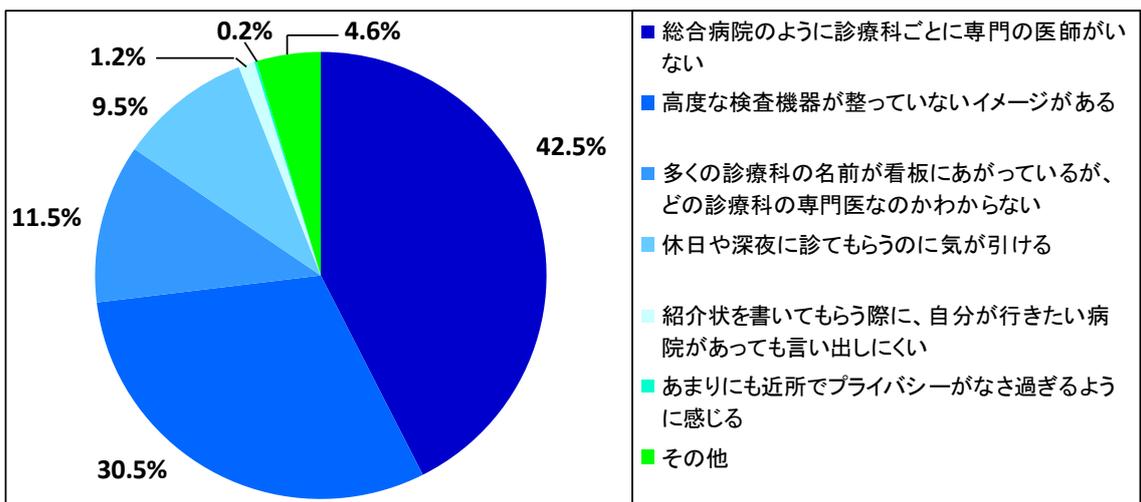
診療所は、待ち時間が少なく、身近で気軽に相談ができ、患者に適した病院を紹介してくれると認識されており、診療所が「かかりつけ医」としての機能を果していることが分かる。

**問 11. あなたが思う診療所のもの足りないところはどんなところですか。重要と思う順に2つまで選んで記入してください。**

一方、診療所の短所としては、「高度な検査機器が整っていない」「診療科ごとに専門の医師がいない」がそれぞれ30%を越えている。



また、最も重要な短所として回答した項目については、「診療科ごとに専門の医師がいない」が42.5%、「高度な検査機器が整っていない」が30.5%であり、比較的多い回答となった。

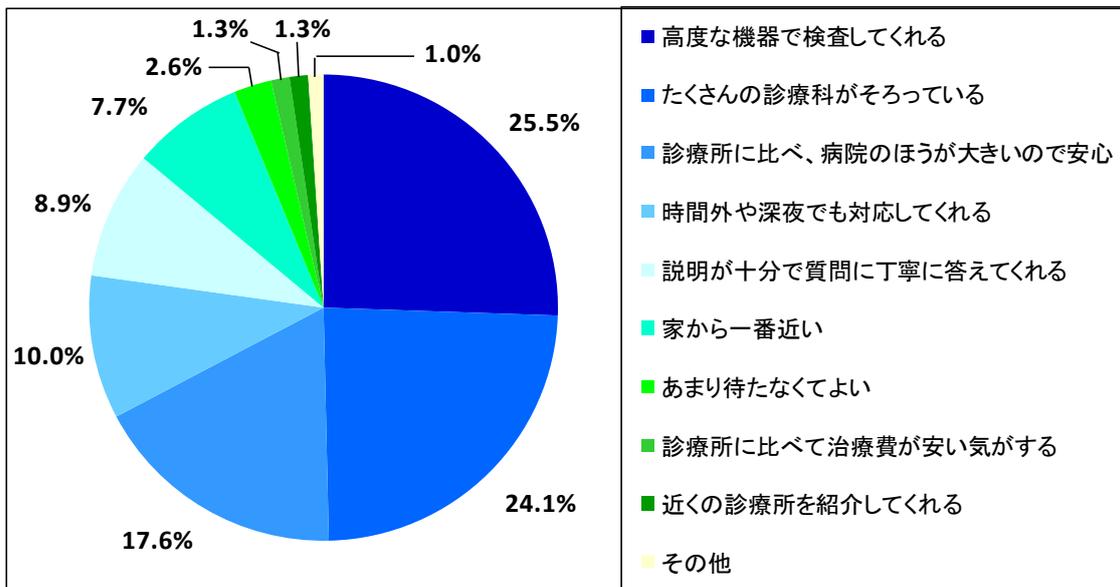


診療所と病院の連携を考える場合、この診療所の短所を補完するような役割を病院などが担い、円滑な診療体制を構築することが、市民の安心感や満足度の向上につながるものと考えられる。

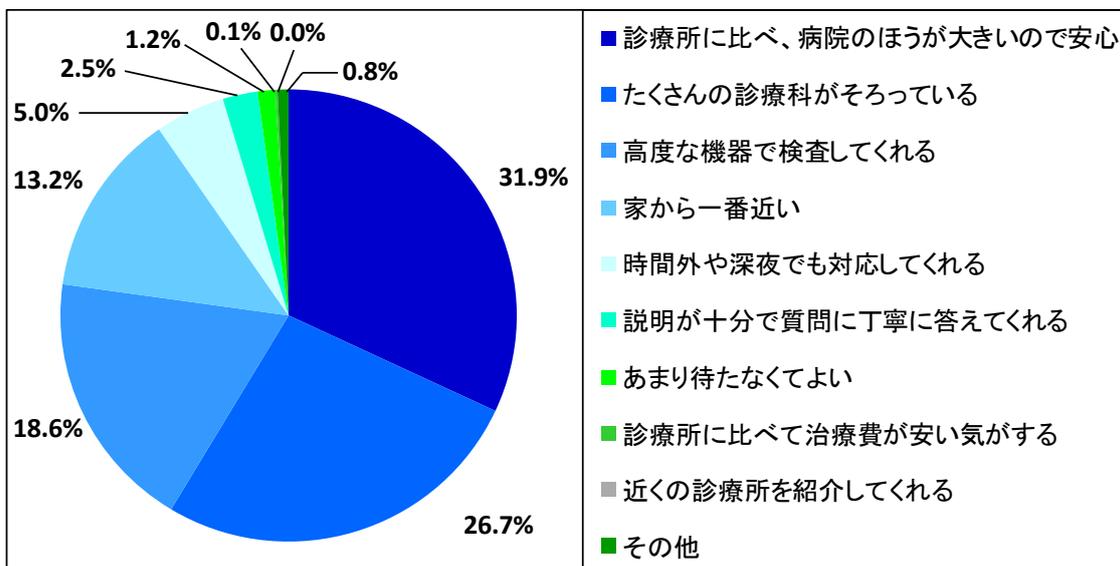
## 4. 病院の長所・短所

### 問 12. あなたが思う病院の長所はどんなところですか。重要と思う順に3つまで選んで記入してください。

病院の長所として、「高度な機器で検査してくれる」が 25.5%、「たくさんの診療科がそろっている」が 24.1%であり、比較的多い回答となった。診療所の短所を補う機能を病院がもっていると市民に考えられていると言える。

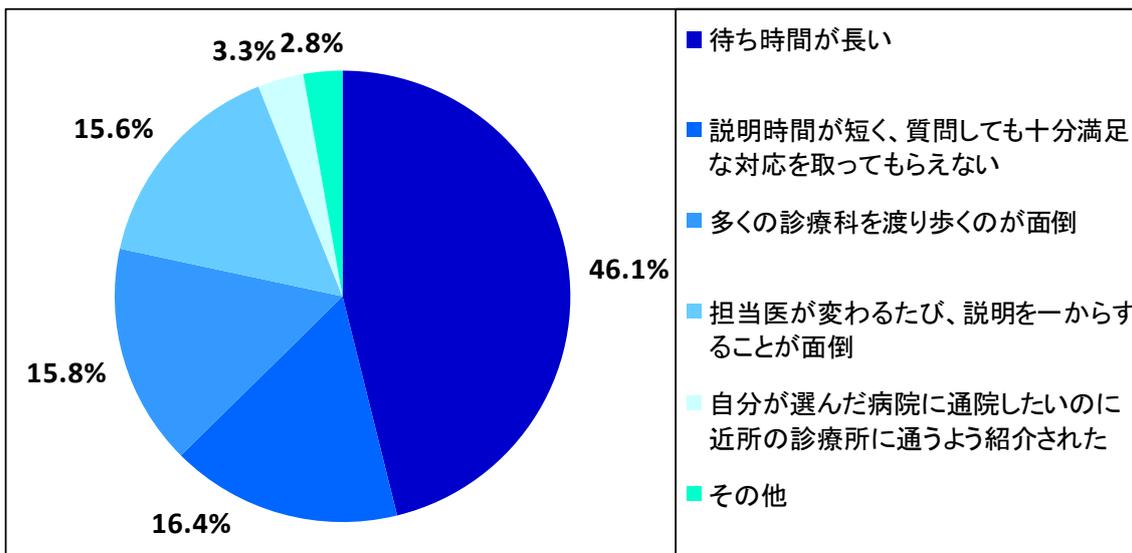


また、最も重要な長所として回答した項目については、「診療所に比べ、病院のほうが大きいので安心」が 31.9%、「たくさんの診療科がそろっている」が 26.7%、「高度な機器で検査できる」が 18.6%であり、比較的多い回答となった。

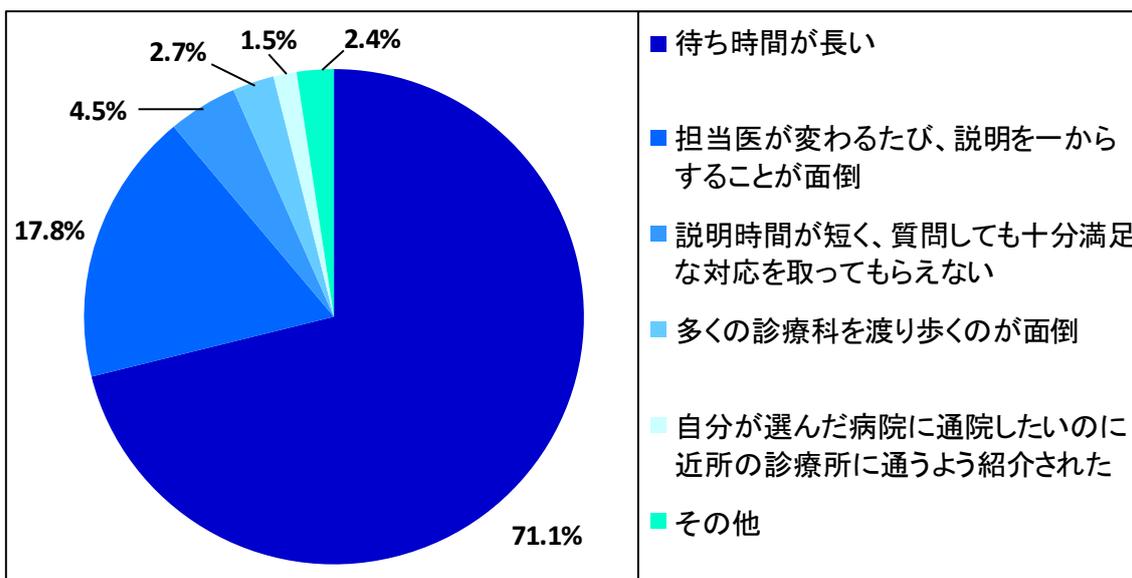


**問 13. あなたが思う病院のもの足りないところはどんなところですか。重要と思う順に2つまで選んで記入してください。**

一方、病院の短所については、「待ち時間が長い」が 46.1%もいる。次いで、「説明時間が短く、質問しても十分な対応を取ってもらえない」が 16.4%、「多くの診療科を渡り歩くのが面倒」が 15.8%、「担当医が変わるたび、説明を一からすることが面倒」が 15.6%であった。



また、最も重要な短所として回答した項目については、「待ち時間が長い」が 71.1%と圧倒的に多く、次いで、「担当医が変わるたび、説明を一からすることが面倒」が 17.8%であった。





病院の短所として、「待ち時間の長さ」や「説明時間が短い」と多くの市民の方が感じていることから、それぞれの病院が円滑な受診体制を整備するよう努めていく必要がある。一方で、病院の最も重要な長所として「診療所に比べ、病院のほうが大きいので安心」との回答が多く見られたことから、軽症患者の受診に際しての病院と診療所の役割分担や、「かかりつけ医」を持つことについて、さらなる普及啓発が必要である。

診療所の長所として、「かかりつけ医」機能が市民に強く認知されていることから、診療所・病院それぞれのメリット・デメリットを相互に補完できる機能分化の推進が重要となっている。

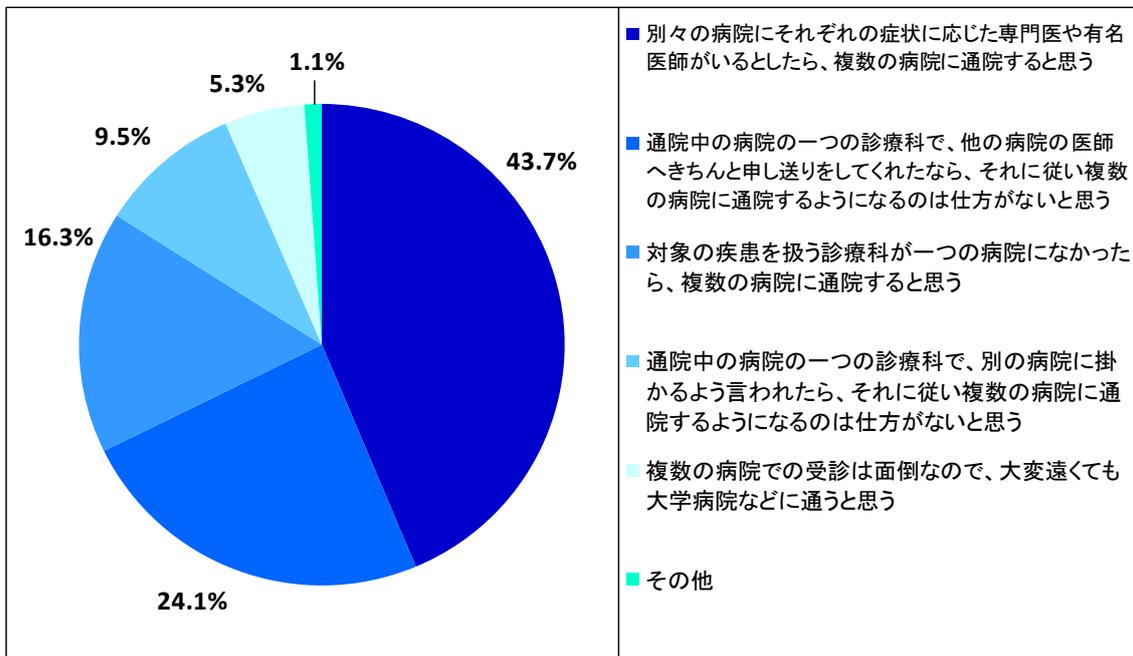
地域医療体制を充実させるためには、プライマリケアは診療所が主体的に担い、病院は診療所から紹介された患者に対し高度な検査や専門外来、入院・手術を担当するというように、地域全体の大きな視野に立って医療機関が十分な連携を図ることが必要ではないかと思われる。そのためには、市民の適切な医療機関への受診について、引き続き周知を図っていく必要がある。

一方、病院の短所として、「担当医が変わるたび、説明を一からすることが面倒」という回答が15.6%あったことに関しては、診療科間の円滑な連携や、病院・診療所間の情報連携に問題がある可能性が高いと考えられるため、この問題を解消するための取り組みを進めていく必要がある。



**問 14. 複数の疾患を持っていた場合、その疾患ごとに別々の病院の診療科に通院することについて、あなた自身の考え方に最も近いものを選んで記入してください。**

複数の病院に通うことへの意見を調査したところ、「有名な医師や専門医がいれば複数の病院を利用する」が43.7%、「きちんと申し送りをしてくれたなら複数の病院を利用する」が24.1%であり、比較的多い回答となった。一方、「遠くても大学病院などひとつの病院に通う」との回答は5.3%であった。



専門医を配置した医療体制の充実や、丁寧で確実な医療機関同士の連携が確保されていることが最優先に求められており、複数の病院にかかることへの抵抗感は少ないと推測される。

## 5. 二次救急についての意見

### 問 15. 入院や手術等が必要な患者については、一次救急医療機関の医師の判断で救急指定の医療機関に転院する仕組みをご存知でしたか。

一次救急医療機関の医師の判断で二次救急医療機関に転院するという国の方針について、「知っていた」という回答は34.5%であり、あまり知られていないと言える。

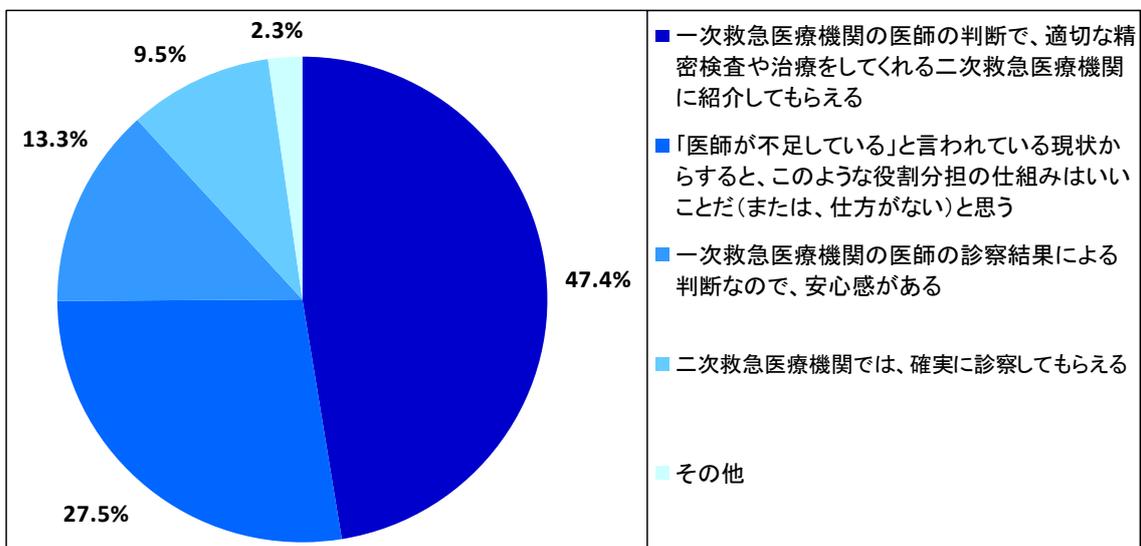
	知っていた	知らなかった	合計
回答数	270	512	782
占有率	34.5%	65.5%	100%

また、平成19年度に実施したアンケート結果と比較すると、次のとおりとなっており、「知っていた」が1.0ポイント増加している。

	知っていた		知らなかった		合計	
	回答数	占有率	回答数	占有率	回答数	占有率
平成28年度	270	34.5%	512	65.5%	782	100%
平成19年度	389	33.5%	773	66.5%	1,162	100%
差引		1.0%		△1.0%		

### 問 16. あなたはこの仕組みの良い点としてどんなことを考えますか。

この方針の長所として、「医師の判断で、適切な検査・治療をしてくれる病院に紹介してもらえる」が最も多く47.4%であった。次いで「医師不足の現状からすると、役割分担はいいことだ(または仕方ない)」という回答が27.5%であった。

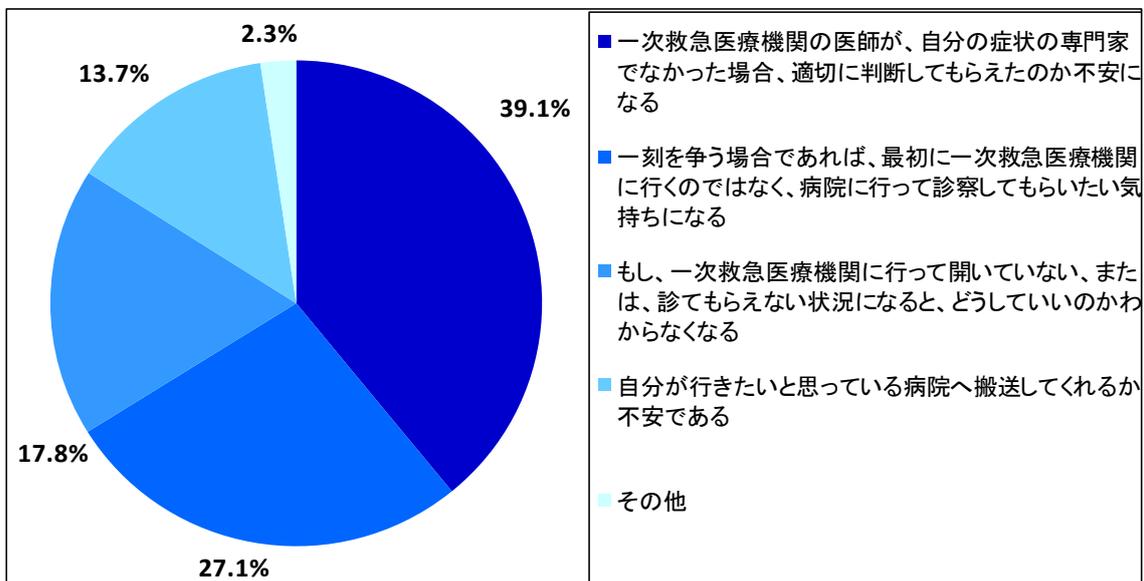




医師に判断してもらうことが安心感につながることや、医師の不足や偏在に対する認知度が高いことがうかがえる。

### 問 17. あなたはこの仕組みの不安な点としてどんなことを考えますか。

一方、この仕組みにおいて不安な点は、「一次救急医療機関の医師がその疾病の専門医でない場合、不安になる」が最も多く 39.1%であった。次いで「一刻を争う場合は最初から病院で診察してもらいたい」という回答が 27.1%であった。



一次救急医療機関の医師の判断で二次救急医療機関に転院するという国の方針について、「知らなかった」という回答が 65.5%もあることや、この制度の不安な点として「一刻を争う場合は最初から病院で診察してもらいたい」という回答が多かった。

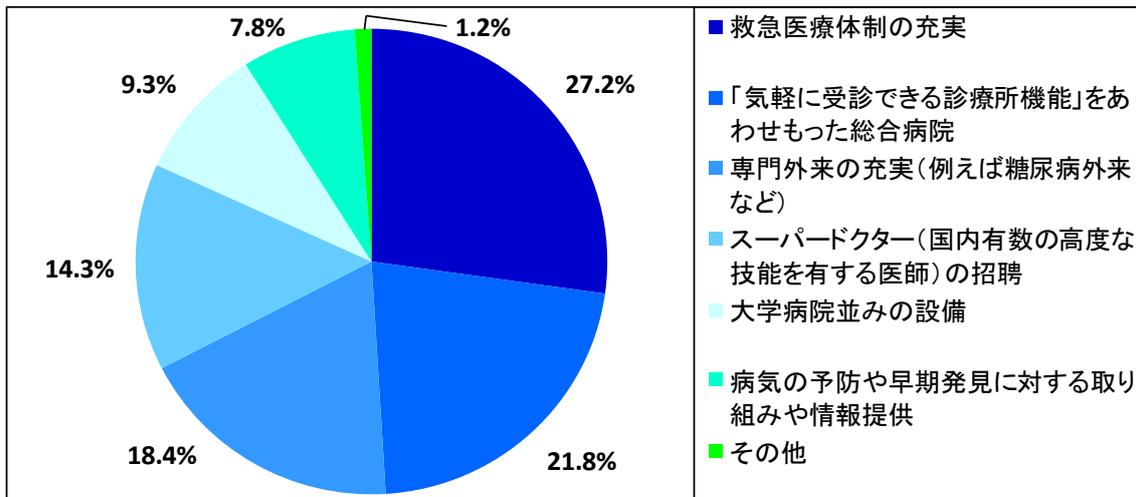
二次救急医療機関に患者が直接受診し、二次救急医療機関が軽症患者の診察により重症患者の受け入れができなかった、などという事態を避けるためにも、救急医療体制の仕組み全体について、市民啓発を行う必要性が求められている。



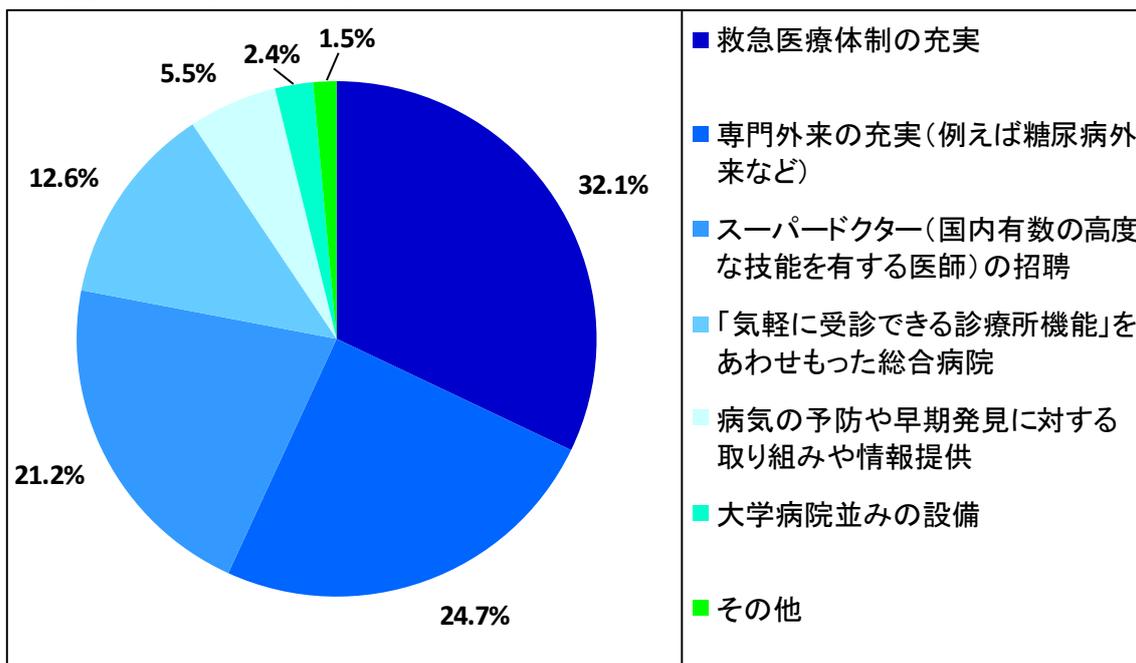
## 6. 市立伊丹病院に期待する役割についての意見

**問 18. 今後、あなたが市立伊丹病院に期待する役割は何ですか。重要と思う順に2つまで選んで記入してください。**

伊丹病院に期待する役割を聞いたところ、「救急医療体制の充実」が最も多く、27.2%であった。次いで「気軽に受診できる診療所機能」が21.8%、「専門外来の充実」が18.4%であった。



また、最も重要として回答した項目については、「救急医療体制の充実」が最も多く32.1%であった。次いで「専門外来の充実」が24.7%、「高度な技能を有する医師の招聘」が21.2%であった。



最も重要との回答に「救急医療体制の充実」「専門外来の充実」「高度な技能を有する医師の招聘」が多い一方で、2番目に重要との回答には、「気軽に受診できる診療所機能をあわせもった総合病院」という項目が多く選ばれている。この背景には、伊丹病院の診療体制などの機能が充実してきたことや、『市民に信頼される伊丹病院』を目指して職員一丸となって取り組んできた成果として、市民からの信頼度が向上し、「何かあったら伊丹病院にかかりたい」という市民の期待が大きいことの現れではないかと推測される。

しかしながら、伊丹病院は、診療所などが担うプライマリケアに対し、2次救急などの24時間体制での入院治療の提供や、重症患者に必要な検査や治療を提供する急性期機能を担う医療機関としての役割を果たすべきと考えられるので、引き続き、診療体制の機能充実などに努めるとともに、診療所と病院の役割分担のあり方について、さらなる啓発が必要であると思われる。



加えて、平成19年度に実施したアンケート結果と比較すると、次のとおりとなる。

	救急医療体制の充実	「気軽に受診できる診療所機能をあわせもった総合病院」	専門外来の充実	スーパードクターの招聘	大学病院並みの設備	病気の予防や早期発見に対する取り組みや情報提供	その他	合計
平成28年度	27.2%	21.8%	18.4%	14.3%	9.3%	7.8%	1.2%	100%
平成19年度	25%	23%	15%	14%	8%	12%	3%	100%
差引	2.2%	△1.2%	3.4%	0.3%	1.3%	△4.2%	△1.8%	

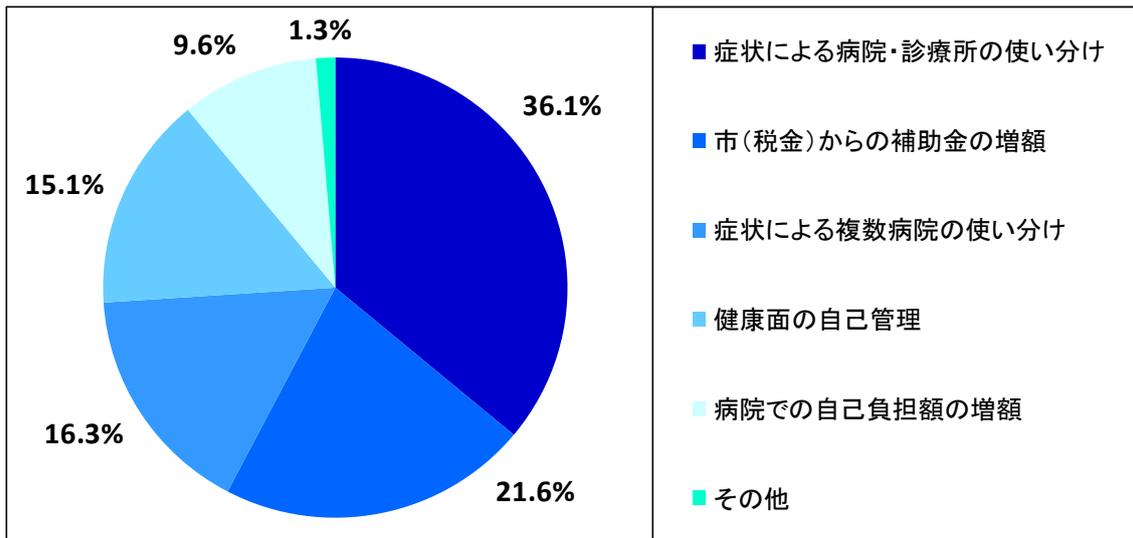
※平成19年度実施アンケートのデータは整数表示のため、差し引きは参考数値



「専門外来の充実」「救急医療体制の充実」との回答率が上昇していることから、市民からは、伊丹病院がさらに高度な医療を提供することが求められていると推測される。

**問 19. 前の「問 18」を実現するために、あなたがやむをえないと思える負担はどれですか。最も近いものの番号を記入してください。**

伊丹病院に期待することを実現するために「やむをえない負担」を調査したところ、「症状による病院・診療所の使い分け」が最も多く、36.1%であった。次いで、「市（税金）からの補助金の増額」が21.6%であった。



加えて、平成 19 年度に実施したアンケート結果と比較すると、次のとおりとなる。

	症状による病院・診療所の使い分け	市（税金）からの補助金の増額	症状による複数病院の使い分け	健康面の自己管理	病院での自己負担額の増額	その他	合計
平成28年度	36.1%	21.6%	16.3%	15.1%	9.6%	1.3%	100%
平成19年度	31%	29%	8%	22%	8%	2%	100%
差引	5.1%	△7.4%	8.3%	△6.9%	1.6%	△0.7%	

※平成19年度実施アンケートのデータは整数表示のため、差し引きは参考数値

「症状による複数病院の使い分け」「症状による病院・診療所の使い分け」が増加し、「市（税金）からの補助金の増額」が減少していることから、伊丹病院の機能充実がなされるのであれば、一定の利便性の低下などはやむを得ないと考えている市民が多いことが伺える。

このような意見を踏まえつつ、伊丹病院は高度な医療を提供するとともに、市内の診療所や病院が円滑に連携して医療を提供していくことが、市民が安心して暮らすことができる医療体制につながるものと推測される。



伊丹病院に期待する役割について「救急医療体制の充実」が27.2%と最も高く、救急医療体制に対し、伊丹病院に体制整備を求める声が多いと言える。

次いで、「気軽に受診できる診療所機能」という回答が21.8%と多かったことについては、病院機能の役割分担に関する国の方針と市民意識に著しい差があると言える。

しかしながら、「伊丹病院に期待すること」の回答を実現するため、やむをえないと思える負担では「症状による病院・診療所の使い分け」が36.1%と最も多く、また、「病院と診療所の長所・短所」についての回答では、機能分化について、市民からは一定の理解を得ているものの、中核病院としての役割のみならず、診療所としての役割も同時に期待されていると判断できる。その背景には、行政に対して、安心して生活することができる地域医療体制の整備を期待する市民の強い要望があるのではないかと推測される。

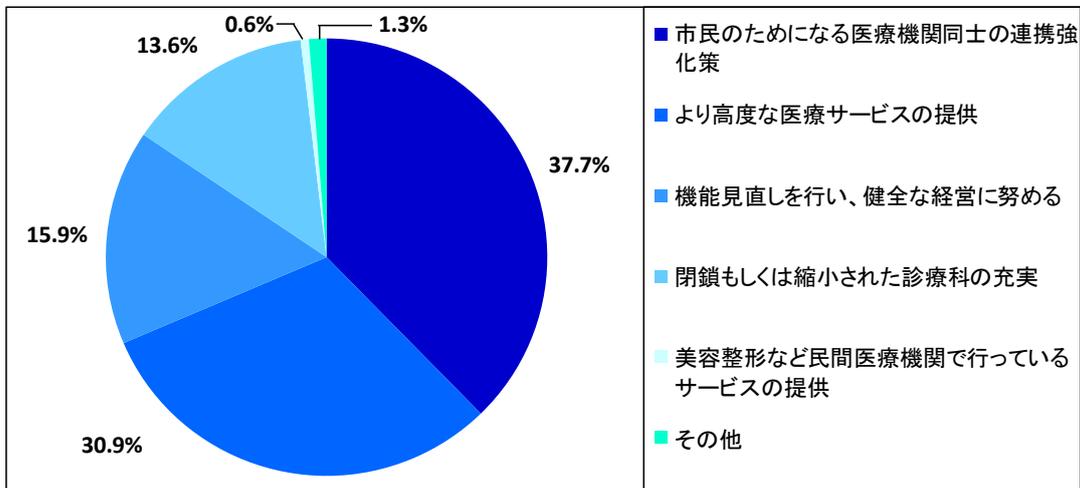
また、「伊丹病院に期待すること」の回答を実現するため、やむをえないと思える負担で、「健康面での自己管理」を15.1%の市民があげていることから、日ごろから健康の自己管理につとめ、病気にならないよう気を配りたいという思いが強いことが伺われ、行政としても、各種健診受診率の向上、特定保健指導等による生活習慣病予防・重症化予防を目指すとともに、市民が主体的に健康づくりに取り組む体制整備を図ることにより、市民の健康づくりを支援することが重要である。



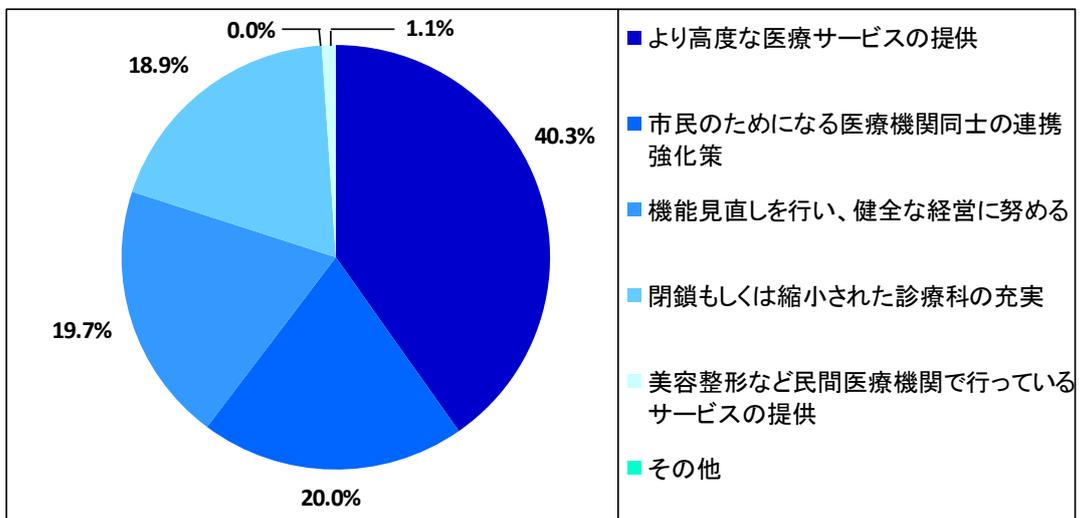
## 7. 伊丹市内の医療体制についての意見

**問 20. 伊丹市内には地域の中核病院として市立伊丹病院と近畿中央病院の2つがあります。これら2つの病院が率先して取り組むべき課題のうち、優先すべきものは何だと思えますか。重要と思う順に2つまで選んで記入してください。**

市内にある伊丹病院と近畿中央病院の二つの中核病院に対して期待することは、「市民のためになる医療機関同士の連携強化策」が最も多く、37.7%であった。次いで「より高度な医療サービスの提供」が30.9%であった。



また、最も重要として回答した項目については、「より高度な医療サービスの提供」が最も多く、40.3%であった。「市民のためになる医療機関同士の連携強化策」「機能見直しを行い、健全な経営に努める」「閉鎖（縮小）された診療科の充実」という回答も次いで多くなっている。



加えて、平成19年度に実施したアンケート結果と比較すると、次のとおりとなる。

	市民のためになる医療機関同士の連携強化策	より高度な医療サービスの提供	機能見直しを行い、健全な経営に努める	閉鎖もしくは縮小された診療科の充実	美容整形など民間医療機関で行っているサービスの提供	その他	合計
平成28年度	37.7%	30.9%	15.9%	13.6%	0.6%	1.3%	100%
平成19年度	35%	23%	20%	19%	1%	2%	100%
差引	2.7%	7.9%	△4.1%	△5.4%	△0.4%	△0.7%	

※平成19年度実施アンケートのデータは整数表示のため、差し引きは参考数値

伊丹病院と近畿中央病院の二つの中核病院に対して期待することは、「市民のためになる医療機関同士の連携強化策」がもっとも多く、37.7%であった。

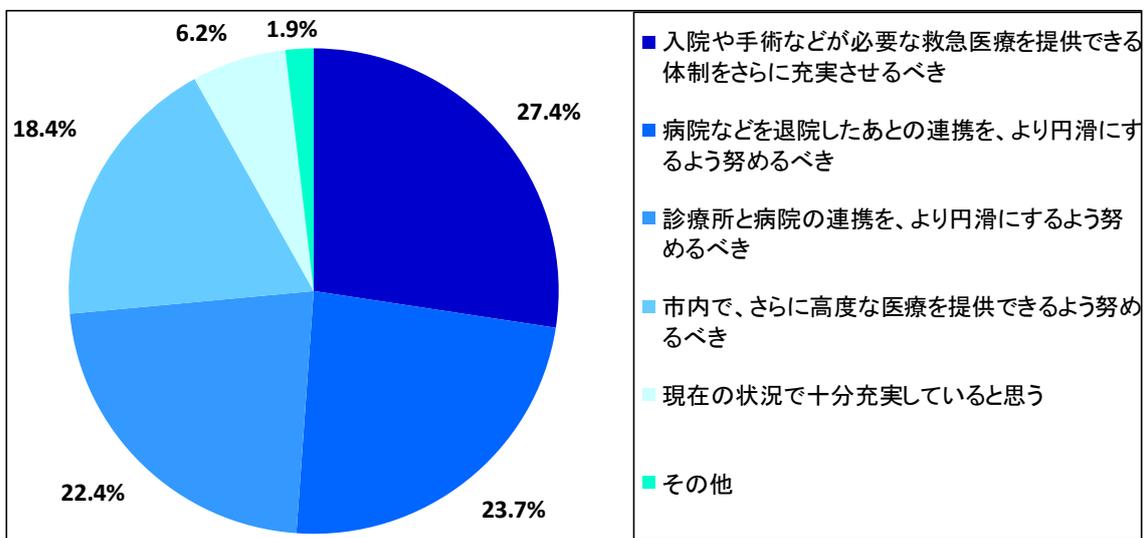
また、「複数の病院に通うことへの意見」のところで、充実した医療体制や丁寧で確実な医療機関同士の連携が確保されているならば、複数の病院にかかることは仕方がない、という意見が多かった。

このことも踏まえると、市民からは、それぞれの病院が安定した医療を提供することに加え、市内の中核病院として相互に連携することによって、安心して暮らすことができる地域医療体制の中心的な役割を担うことも求められていると考えられる。



**問 21. 伊丹市と市立伊丹病院では、市内の診療所や病院をはじめ、介護サービスを  
行っている事業所などと連携し、市民の皆さまが安心して暮らすこと  
ができるよう取り組んでいます。このことについてどう思いますか。最も  
近いものの番号を記入してください。**

市内の医療や介護サービスの体制に対しては、「入院や手術が必要な救急医療提供体制の充実」が最も多く、27.4%であった。次いで「病院退院後の円滑な連携体制の充実」との回答が23.7%、「診療所と病院の円滑な連携体制の充実」が22.4%、「さらに高度な医療提供体制の充実」が18.4%であった。



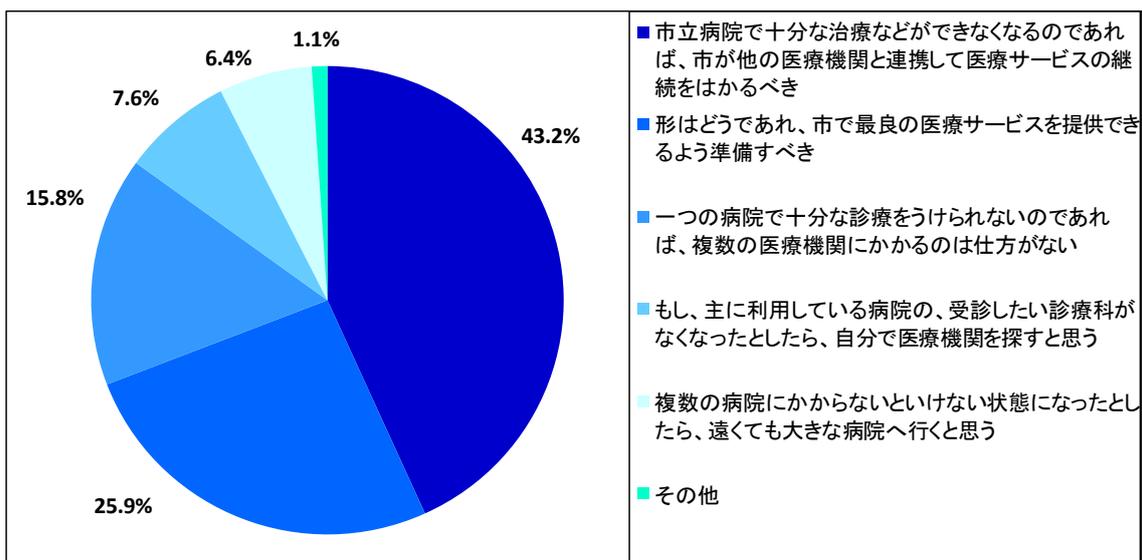
入院や手術が必要な救急医療や、さらに高度な医療提供体制の充実については、市や伊丹病院が市民のニーズに沿った施策をどのように進めていくのかを検討するとともに、市内の病院と診療所、あるいは病院退院後の円滑な連携体制についても併せて強化していくことが、市民の医療体制に関する満足度の向上につながるものと考えられる。

## 8. 阪神北圏域における医療体制についての意見

**問 22. 全国的に病院間の機能連携（例えば、市立伊丹病院と宝塚市立病院で産科と婦人科をそれぞれ分担して受け持つなど）が取られています。このことについてどう思われますか。最も近いものの番号を記入してください。**

市立病院の診療科の一部がなくなった場合の対処方法について意見を聞いたところ、「市が他の医療機関と提携して医療サービスの継続をはかるべき」が 43.2%と最も多かった。次いで、「形はどうであれ、市で最良の医療サービスを提供できるよう準備すべき」が 25.9%となっている。

一方、「複数の病院にかからないといけない状態となったとしたら、遠くても大きな病院に行く」と回答した市民は 6.4%あった。



医師の不足や偏在等に起因する診療科の縮小などに対する市民の認識が高いことが予想され、市立病院単独での対処よりも、他の医療機関との連携をはじめとした、地域医療全体としての診療体制の充実への期待が大きいことがわかる。

一方、一つの病院で全ての診療科が揃っている病院が最善であるとしても、市民がわざわざ遠くの大病院まで足を運ぶ可能性は少ない傾向にある。

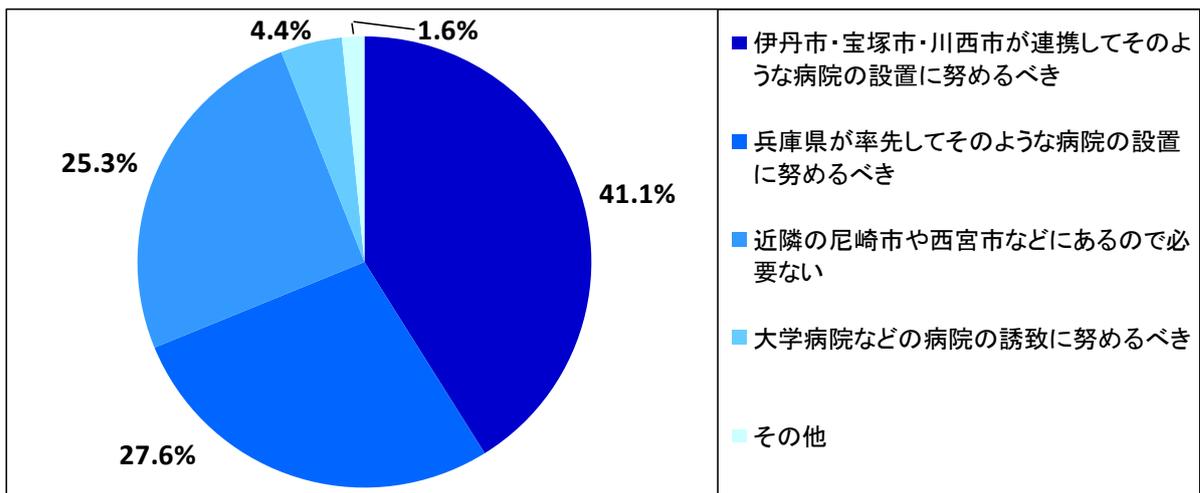


**問 23. 阪神北部の地域（伊丹市・宝塚市・川西市）には、非常に高度な医療を提供する病院（例えば、尼崎市にある兵庫県立尼崎総合医療センターや、西宮市にある兵庫医科大学病院、兵庫県立西宮病院のような病院）がありません。このことについてどう思いますか。最も近いものの番号を記入してください。**

阪神北部の地域における高度急性期医療を提供する病院についての意見を聞いたところ、「伊丹市・宝塚市・川西市が連携して設置に努めるべき」との回答が 41.1%と最も多かった。

次いで「兵庫県が率先して設置に努めるべき」との回答が 27.6%であった。

一方、「近隣の尼崎市や西宮市などにあるので必要ない」との回答も 25.3%となっている。



「伊丹市・宝塚市・川西市が連携して設置に努めるべき」という回答が 41.1%と多かった背景には、伊丹市・宝塚市・川西市・猪名川町が連携し、兵庫県や3市医師会の協力により設置した「阪神北広域こども急病センター」の実績が非常に大きいのではないかと推測される。

また、伊丹市・宝塚市・川西市の連携や、兵庫県による設置、大学病院の誘致など、設置手法等は異なるものの、高度急性期医療を提供する病院が必要と考えている人を合わせると 73.1%にもものぼることから、市民ニーズにどのようにして対応していくべきかを検討する必要がある。

一方で、不要と考える人も 25.3%いることから、当該地域において、どのような医療需要があるのかも含め、さらに掘り下げて調査研究をしていく必要がある。

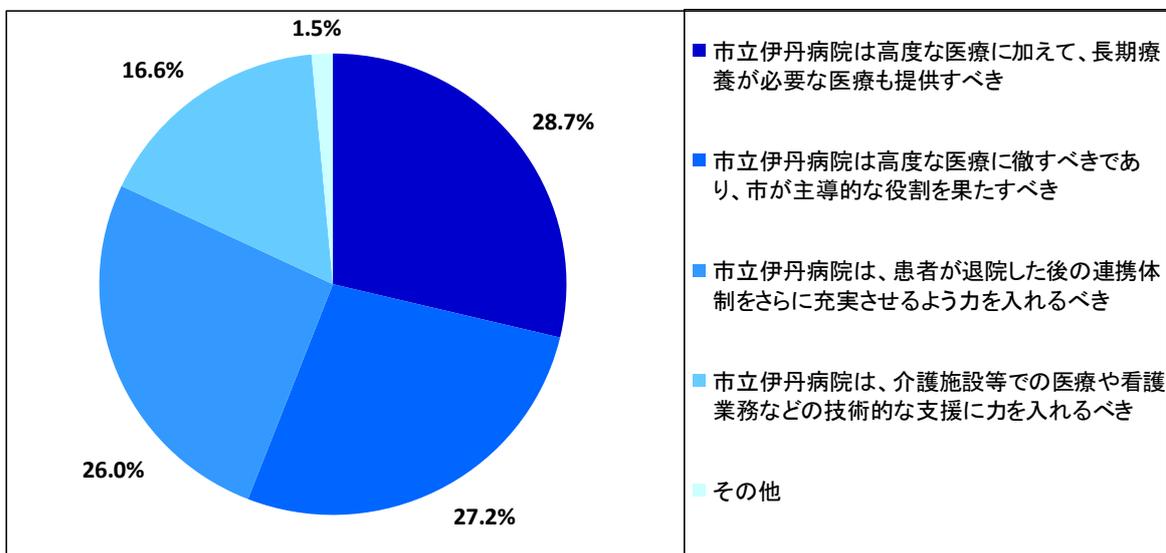


## 8. 介護サービスについての意見

**問 24. 伊丹市では、住み慣れた地域で在宅を基本とした生活を可能とする「地域包括ケアシステム」の構築を目指しています。その中でも、在宅医療・在宅介護の推進を図るため、医師会、歯科医師会、薬剤師会や市立伊丹病院等の医療機関と、介護保険事業者や居宅介護支援事業所等との連携を図っていかうとしています。**

**あなたは市や市立伊丹病院の役割について、どう思いますか。**

伊丹市において、地域包括ケアシステムの構築を目指すことに際して、市や伊丹病院に期待する役割について質問したところ、「伊丹病院は高度な医療に加えて、長期療養が必要な医療も提供すべき」がもっとも多く 28.7%であった。次いで「伊丹病院は高度な医療に徹すべきであり、市が主導的な役割を果たすべき」が 27.2%、「伊丹病院は、患者退院後の連携体制をさらに充実させるよう力を入れるべき」が 26.0%となっている。





長期療養が必要な医療については、現在の医療制度改革においては機能分化が求められていることから、例えば、高度急性期医療と慢性期医療など複数の病床機能を一つの医療機関で提供することは困難であると考えられるため、市として医療関係者等に協力をお願いするとともに、伊丹病院としても、それらの病院と円滑に連携していくよう努めていく必要があると考えられる。

一方で、それ以外の回答についても多く見られることから、伊丹病院は、高度な医療を提供し、地域の中核的な急性期病院としての機能を発揮しつつ、患者が退院した後の連携体制の充実やアフターケアなどについても、主導的な役割を担うことが求められていると推測される。